

MEDICA 国際医療見本市における「医療技術セミナー」 水内総領事挨拶

1. 日時 2015年11月17日（火）16:00

2. 場所 メッセ・デュッセルドルフ NRW 州ブース (Halle 3)

- 本日、医療技術セミナーが開催されることにつきまして、準備に尽力された皆様には心より感謝。ご来場の皆様に歓迎の意を申し上げますとともに、一言ご挨拶。
- MEDICA は 40 年以上続く世界的な医療産業見本市。日本からの出展者も年々増加しており、今年は 160 社もの多くの日本からの出展者があると聞いており、うれしく思う。過去の MEDICA では、多くの日本からの出展者の方が、会期中に具体的な商談を成立されている。そのような成果が日本からの出展者が年々増加している要因となっており、大変良い循環を生み出している。本 MEDICA は、見本市を通じた日独企業間の連携のモデルケースとも言える。
- 日独両国は、少子高齢化という共通の課題に直面しており、医療分野は大変重要なテーマ。両国は、医療技術や医療機器の開発・製造において世界をリードしており、協力して取り組める可能性は非常に大きい。
- 東日本大震災において大きな被害を受けた福島県においても、医療産業を復興の柱の 1 つとされている。福島県と NRW 州の間では協力覚書が締結されており、医療技術分野における様々な交流が着実に進められていることをうれしく思う。
- その他にも、本日のセミナーでプレゼンテーションをされる長野県の企業をはじめ、日本全国様々な地域から優れた企業が Medica/Compamed 出展されている。日本には、ドイツ同様、優れた技術を有する中小企業、いわゆる Hidden-Champion が多数存在する。当館としても、そのような優れた日本企業とドイツ企業との更なる連携が生まれるよう、JETRO とともに協力しつつ、引き続き支援していきたい。
- 本日のセミナーが日独協力関係の益々の発展につながっていくことを祈念。